

## “京都をつなぐ無形文化遺産”についての意見募集

- ①「京の地蔵盆―地域と世代をつなぐまちの伝統行事」素案について
- ② 次の選定候補について

京都には、時代とともに変容しながらも、世代を越えて暮らしの中で伝えられてきた数多くの無形文化遺産がありますが、定義や概念、保存団体が不明確であることから、現行の法令上、文化財としての指定・登録が困難なものもあります。

そこで、それらの価値を再発見、再認識し、内外に魅力を発信するとともに、大切に引き継いでいこうという市民的気運を盛り上げるため、平成25年4月、無形文化遺産を守る京都市独自の仕組み「“京都をつなぐ無形文化遺産”制度」を創設し、平成25年10月には、第1号として、「京の食文化―大切にしたい心、受け継ぎたい知恵と味」、平成26年3月には、第2号として、「京・花街の文化―いまも息づく伝統伎芸とおもてなし」を選定しました。

この度、第3号となる「京の地蔵盆―地域と世代をつなぐまちの伝統行事」素案をとりまとめましたので、この素案について、市民の皆様からの御意見を募集します。

併せて、次の選定候補についての市民の皆様からの御意見を募集します。

### ◆ 募集期間

平成26年8月29日(金)～平成26年9月28日(日)【必着】

### ◆ 応募方法

郵送、ファックス又は電子メールにより応募してください。

様式は自由です。本冊子の御意見記入用紙を御利用いただいても結構です。

電子メールで提出される場合は、直接テキスト形式で御意見を入力してください。

なお、提出いただいた書類は返却いたしませんので、御了承願います。

### ◆ 御意見の取扱い

この意見募集で収集した個人情報につきましては、「京都市個人情報保護条例」に基づき適切に取り扱い、他の目的に利用することは一切ありません。

また、御意見につきましては、意見募集の終了後に、御意見の概要及び御意見に対する本市の考え方を取りまとめ、京都市情報館（京都市役所ホームページ）の文化財保護課のホームページ上で公表します。

なお、御意見に対する個別の回答はいたしませんので、あらかじめ御了承願います。

### ◆ 問合せ先及び応募先

〒604-8006

京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2階

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課

電話：(075) 366-1498 / FAX：(075) 213-3366

電子メール：bunka-hogo@city.kyoto.jp



平成26年8月

京 都 市

京都をつなぐ無形文化遺産

# 「京の地蔵盆」

～地域と世代をつなぐまちの伝統行事～

(素案)

1	選定に当たって .....	1
2	京の「地蔵盆」 .....	3
3	「地蔵盆」はいま .....	9

(平成 25 年度京都市「地蔵盆」に関するアンケート調査結果概要)

## 選定に当たって

毎年8月中旬から下旬にかけて行われる伝統的な民俗行事である「地蔵盆」。地蔵信仰という宗教的な性格を持ちながらも、町内安全や子どもの健全育成を願う町内の行事として、時代とともに変化しながら受け継がれ、地域コミュニティの活性化に重要な役割を果たしてきた「地蔵盆」は、京都をはじめ近畿地方で盛んに行われている。

火災や飢饉、疫病の流行等が頻繁に起こり、自らの生活を守るために地域の助け合いが極めて重要であった近世において、お地蔵さんの<sup>ほくら</sup>祠やその周辺に見られる「町内安全」の文字が物語るように、地域の住民に安心と連帯感を与えてくれる存在としてお地蔵さんは<sup>まつ</sup>祀られてきた。

江戸時代になって、人口が増加し、市街地の拡大とともに、町を単位とした住民自治が広がっていく中、お地蔵さんを<sup>まつり</sup>祀る行事「<sup>え</sup>地蔵祭」「<sup>まつり</sup>地蔵会」(明治以降、盆行事の一つとして「地蔵盆」と呼ばれるようになった。)は、町内の主要行事の一つとなった。

しかし、明治初期における<sup>はいぶつきしゃく</sup>廃仏毀釈の動きに伴い、路傍にあるお地蔵さんの撤去が進められた。これにより、市内の多くのお地蔵さんが撤去されたが、明治の中期以降に土中などから掘り起こされ、「地蔵盆」は復活することとなった。また、昭和の高度経済成長期には、新たに建設された新興住宅地やマンションにおいて、地域の行事として「地蔵盆」が積極的に取り入れられ、住民同士のつながりを深める役割を担った。

以降、「地蔵盆」は、子どもたちにとって夏休みの最後を飾る行事となり、お地蔵さんを飾り付け、お供えをして祀り、その前で子どもたちが集まり遊ぶというスタイルが一般的となった。また、子どもだけでなく、大人も積極的に参加することで、世代を越えた交流の場となり、さらに、「地蔵盆」の開催に向け、町内の住民が力を合わせ、話し合いながら準備することは、町内の連携や協力体制を強めることとなった。

このように、町内の住民同士が顔を合わせ、子どもを見守りながら、交流を図る機会となっている「地蔵盆」は、近年において、新しく住民となった方がその町内の住民の方々と交流できる貴重な場としても機能し、地域コミュニティの活性化、そして、安心安全のまちづくりに大いに役立っている。

しかしながら、子どもの減少や職住分離をはじめとする生活様式の変化などにより、行事自体が簡略化・衰退しているところも増えてきている。

こうした現状を踏まえ、世代を越えて京都のまちに脈々と受け継がれてきた民俗行事であり、町内の年中行事となっている「地蔵盆」の果たしてきた役割を再認識し、時代の変化に対応しながら引き継がれるよう、「京の地蔵盆ー地域と世代をつなぐまちの伝統行事」を“京都をつなぐ無形文化遺産”に選定する。

## 京の「地蔵盆」 ～行事内容など～

「地蔵盆」で行われる行事内容は地域によって様々ですが、多くの町内で行われている（行われていた）行事内容を踏まえ、一般的な「地蔵盆」の内容についてまとめてみました。

### 京の夏の風物詩「地蔵盆」

平成25年度に京都市が実施した「地蔵盆」に関するアンケート調査（結果概要は9ページ以降参照）によると、同年に「地蔵盆」（「大日盆」などの盆行事も含む。）を実施した町内は回答全体の約8割となっている。8月後半、まちのあちらこちらで見かける「地蔵盆」は京の夏の風物詩となっている。

#### <開催日>

「地蔵盆」は、じぞうぼさつ地蔵菩薩の縁日である旧暦7月24日、もしくは、その前後のほか、最近では、参加する人たちの都合に合わせて、多少日程をずらして土日に行うところが多い。また、てんどうだいにちによらい天道大日如来を祀っている町内では、大日如来の縁日である旧暦7月28日、もしくは、その前後に「大日盆」を行うところもあるが、それらも「地蔵盆」として行うところが多い。

様々な行事を盛り込み、2日間やそれ以上の日程で行われる町内もあるが、子どもが少なくなったことや大人の都合がつきにくくなったことから、最近では一日で終わるところが多い。

#### <開催場所>

お地蔵さんを祀った祠の前が比較的多い。その他、個人宅や駐車場などの空き地、道路上、集会所、公園などで実施されている。

#### <運営主体>

町内会或いは町内の子供会などが運営主体となって、町内単位に行われることがほとんどである。運営の担い手は大人が中心であるが、鉦や太鼓などで行事の開始を知らせる役割など、子どもも「地蔵盆」の運営に参画することで、世代間の交流が図られている。

また、最近では、「地蔵盆」を開催できない地域の住民のために、学区の自治会館などで「地蔵盆」を開催し、参加してもらうといった取組もある。

### 町内で協力して行う「地蔵盆」

#### <お地蔵さんのお化粧など>

「地蔵盆」が近づくと、町内の人たちは、お地蔵さんを祠から出して、新たに彩色する「お化粧」を行い、新しい前掛けを着せる。

お地蔵さんが祀られていない町内は、寺院から借りるか、或いは、仏画を使用するかなどしていることが多い。



#### <供物などの飾り付け>

町内の人たちからお供えを集め、お地蔵さんを祀る祭壇に花や供物、お札じぞうばた (地蔵幡) ちょうちんなどを飾り付ける。火を灯した提灯に似ているところからホオズキをお飾りの花として使うことが多い。

供物としては、紅白の餅らくがんや落雁はくせんこう (白雪糕) といったお菓子、果物、精進物のお膳などが供えられる。



## <会場まわり>

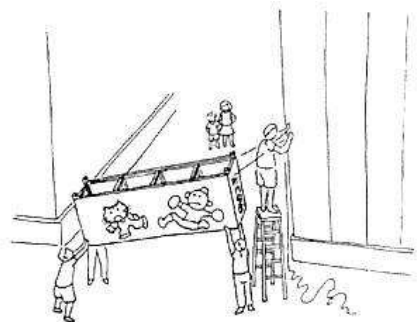
会場まわりはとうろう 提籠やあんどん 行燈、提灯などで飾られる。

子どもが生まれると、健やかな成長を願ってその子の名前を書いた提灯が作られ、その子が「地蔵盆」に参加している間、毎年飾られる。また、青竹ののぼりを立てるところもある。



提籠や行燈にローソクを立て、夜の明かりを楽しむこともある。また、「地蔵盆」の会場の入口に吊るす大きな行燈もある。

行燈の絵を子どもたちが描くなど、大人だけでなく、子どもも「地蔵盆」の準備に参加することにより、世代間の交流が図られている。



なお、最近では見られなくなったが、陶磁器や糸などの日用品を使って人形などをつくり、情景をしつらえる「作り物」もある。



## 世代を越えて交流を図る「地蔵盆」

### <数珠まわしなどの伝統行事>

「地蔵盆」は、僧侶による読経や法話で始まる場所が多い。町内によっては、子どもたちが直径2～3メートルの大きな数珠を囲んで座り、大人もその輪に加わりながら僧侶の読経に合わせて順々に回す「数珠まわし」（百万遍念仏の一種で、「数珠繰り」ともいう。）が行われる。



こうした伝統的な行事だけでなく、お菓子の配布や手料理の振舞い、ゲーム大会、スイカ割りなど、子どもを主体とした様々な行事が行われる。



### <お菓子配り>

子どもたちが喜ぶお菓子配りは、ほとんどの「地蔵盆」で行われている。そこに集まり、学年の違いを越えて隣近所の友達と一緒に遊んだ子どもの頃の経験は、「地蔵盆」の楽しい記憶として、大人になっても残るものである。

### <手料理の振舞い>

お菓子配りのほか、昼食或いは夕食として町内の世話役による手料理が振る舞われることもある。また、屋台が設けられるところもある。

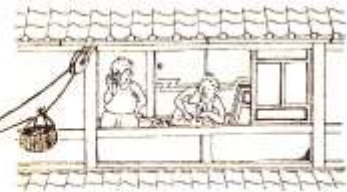
### <遊びのイベント>

ゲーム大会など子ども向けの行事がプログラムに並ぶ。夜になると花火大会や盆踊り、映画会などが行われるところもある。また、大人だけの交流の場がもたれるところもあり、町内における貴重なコミュニケーションの機会ともなっている。

### <福引>

子どもにとって最大の楽しみである福引は、主にプログラムの終盤に行われる。

「<sup>ふご</sup>畚おろし」といった昔ながらの形式で行うところもある。「畚」とはかごのことで、くじで当たった景品をかごに入れて、家の2階などの高所から吊り降ろすものだが、こういった光景を見ることは最近では少なくなった。



### <供物のお下がり>

お菓子などの供物は、お下がりとして子どもたちに配布される。夏の終わりに体力を消耗した子どもたちの栄養を補給しようと落雁を配ったとも言われている。



### 町内を見守るお地蔵さん

「地蔵盆」が終わると、祠から移動させたお地蔵さんは元の場所に戻る。

町内の住民は、日頃から感謝の気持ちを込め、お地蔵さんの前で手を合わせ、祠を綺麗に掃除し、新しい花を活ける。大都市でありながら、まちの辻々で見かけるこうした光景は京都ならではのものである。

地域コミュニティの活性化に「地蔵盆」が重要な役割を果たしていることから、最近では、地域住民が主体となって「地蔵盆」についての調査・研究※が進められています。

※ ふるさとの良さを活かしたまちづくりを進める会（山科区・平成 24・25 年度）、

上京区成逸住民福祉協議会（上京区成逸学区・平成 25 年度） など



## 「地蔵盆」はいま

(平成 25 年度京都市「地蔵盆」に関するアンケート調査結果概要)

“京都をつなぐ無形文化遺産”「地蔵盆」の選定に当たり、京都市内における実施状況を把握するため実施した「地蔵盆」に関するアンケート調査の概要を掲載する。

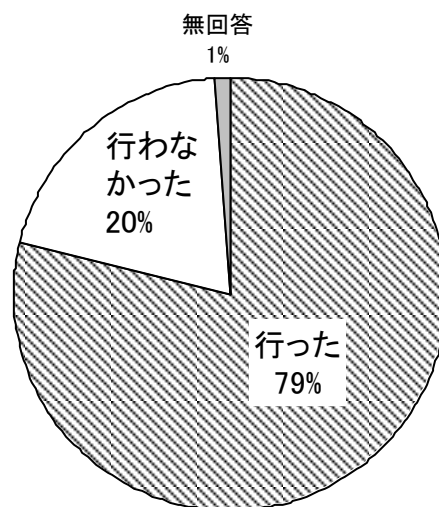
### <調査の概要>

- ・ 調査対象 自治会長・町内会長など
- ・ 調査方法 書面によるアンケート調査（郵送回収）
- ・ 調査期間 平成 25 年 9 月上旬～12 月末
- ・ 調査対象数（配布数） 6,627 件
- ・ 回収状況 有効回収数 3,684（有効回収率 56%）

### <調査結果の概要>

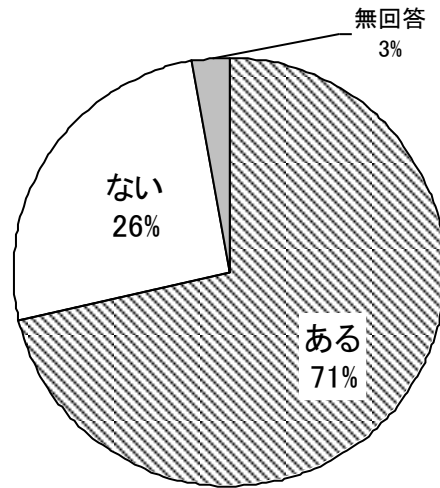
#### 「地蔵盆」の開催状況

平成 25 年度に「地蔵盆」を行った自治会・町内会は回答全体の 79%となっている。



### お地蔵さんの有無

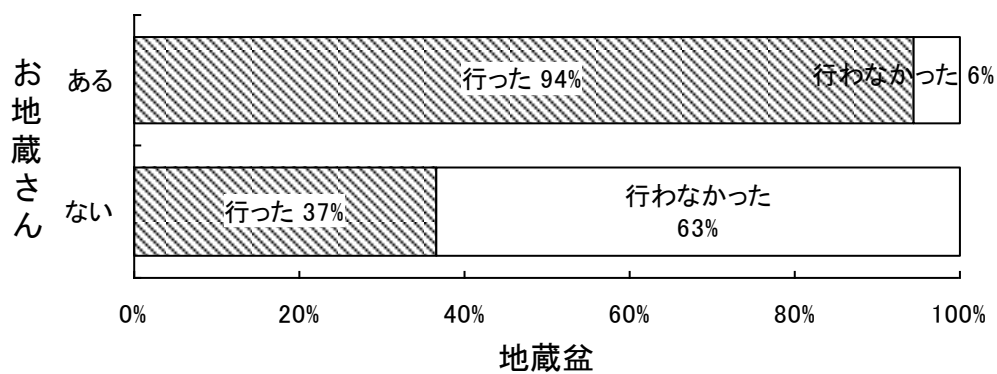
お地蔵さんを祀っている自治会・町内会は、回答全体の71%となっている。



### お地蔵さん有無別の「地蔵盆」開催状況

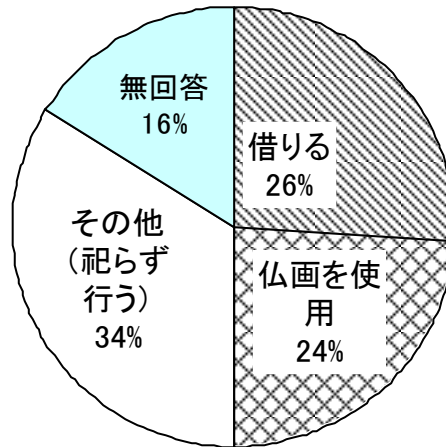
お地蔵さんを祀っている自治会・町内会では、ほとんどが地蔵盆を行っている(94%)。

お地蔵さんを祀っていない自治会・町内会で「地蔵盆」を行ったところは37%となっている。



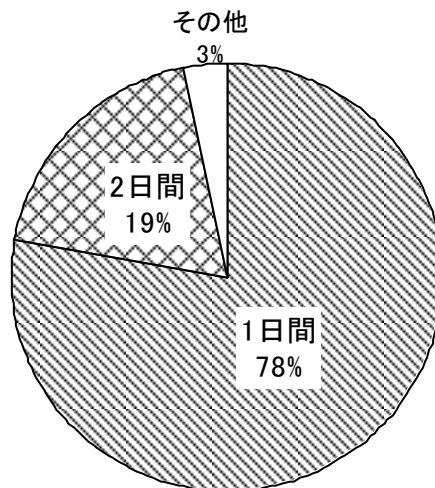
### お地蔵さんを祀っていない場合

お地蔵さんを祀っていないなくても「地蔵盆」を行ったところでは、「お地蔵さんを借りてくる」が26%、「仏画を使用する」が24%、「その他（祀らず行う）」が34%となっている。



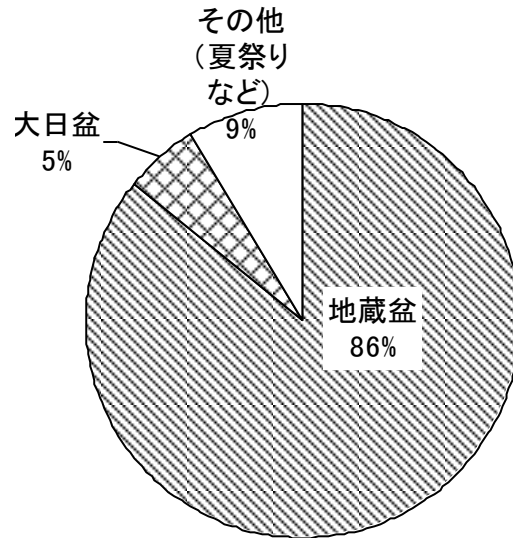
### 開催日数

「1日間」が78%を占め、「2日間」は19%となっている。



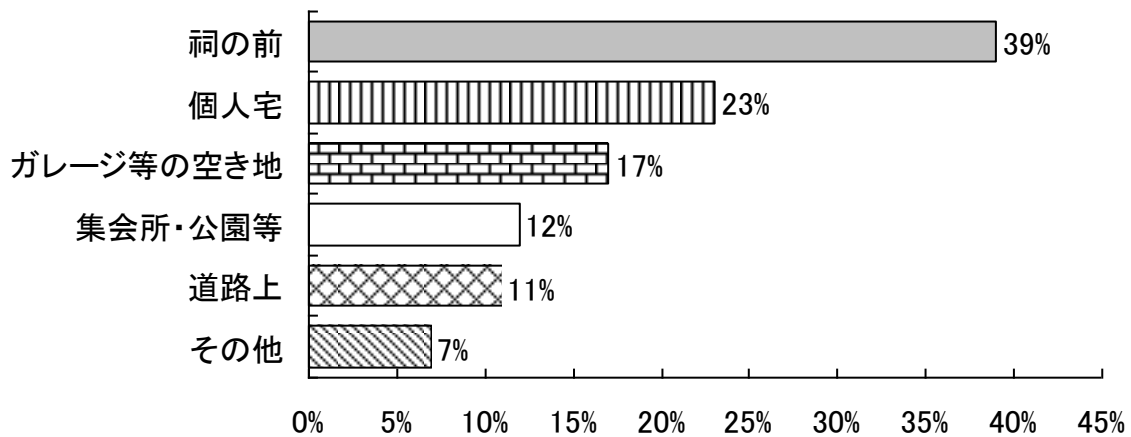
### 行事の名称

行事の名称は、ほとんどが「地藏盆」であったが、「大日盆」も5%ある。



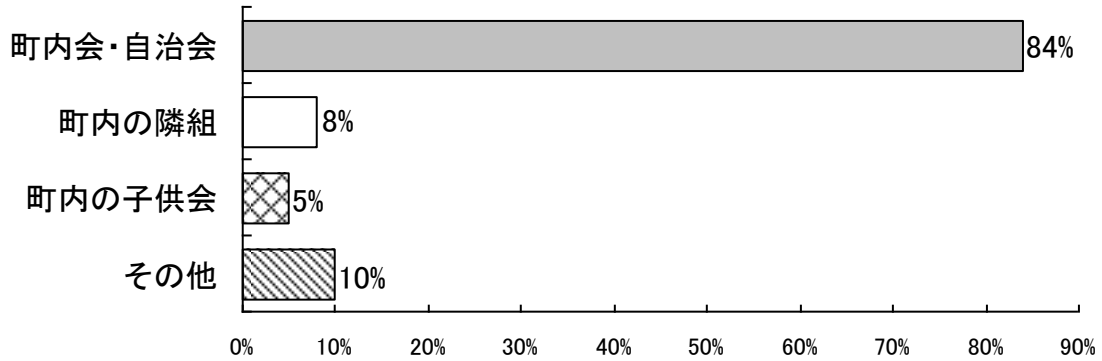
### 「地藏盆」の開催場所

「祠の前」が最も多く(39%),「個人宅」(23%),「ガレージ等の空き地」(17%),「集会所・公園等」(12%),「道路上」(11%)となっている(複数回答)。



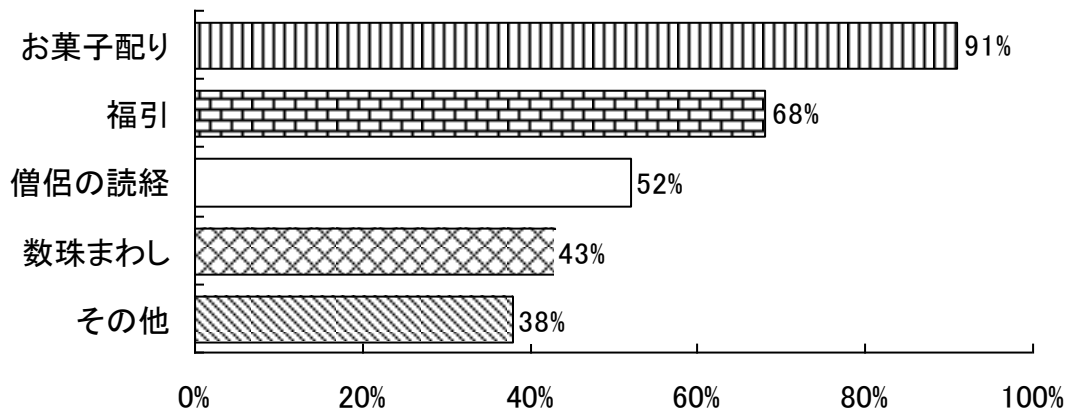
### 「地蔵盆」の運営主体

「自治会・町内会」が84%を占める（複数回答）。



### 行事プログラム

お地蔵さんの飾り付けやお供えのほか、「地蔵盆」のプログラムで最も多かったのは「お菓子配り」(91%)で、続いて、「福引」(68%)となっている（複数回答）。



“京都をつなぐ無形文化遺産” についての御意見記入用紙 ①

宛 先

〒604-8006

京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町 394 番地 Y・J・K ビル 2 階

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 宛

(FAX) 075-213-3366

(電子メール) [bunka-hogo@city.kyoto.jp](mailto:bunka-hogo@city.kyoto.jp)



【御意見記入欄】(※ 書ききれない場合は別の用紙に御記入ください。)

1 「京の地蔵盆—地域と世代をつなぐまちの伝統行事」素案に対する御意見

2 あなたの町内における「地蔵盆」の開催状況についてお教えてください。

①今年、あなたの町内では、「地蔵盆」が行われましたか？

はい ・ いいえ ・ わからない

②将来に残していきたい、また、子供たちに人気のある「地蔵盆」行事がありましたら御記入ください。今後の普及啓発の参考とさせていただきます。

3 「地蔵盆」を将来に引き継いでいくための普及啓発のアイデアを御記入ください。

次ページに続く





## “京都をつなぐ無形文化遺産” についての御意見記入用紙 ②

【御意見記入欄】（※ 書ききれない場合は別の用紙に御記入ください。）

4 これまでに“京都をつなぐ無形文化遺産”に「京の食文化」、「京・花街の文化」を選定し、今回、「地蔵盆」を選定しようとしています。

次に選定する“京都をつなぐ無形文化遺産”について、あなたがふさわしいと思うものを御記入ください（複数回答可）。

（京都市内の無形文化財などについてはP.17を御参照ください。）

※ 御意見を取りまとめる際の参考としますので、差し支えなければ下記の項目の当てはまる番号に「○」を御記入ください。

- |         |          |                      |         |        |
|---------|----------|----------------------|---------|--------|
| 【性別】    | 1 男性     | 2 女性                 |         |        |
| 【年齢】    | 1 20歳未満  | 2 20歳代               | 3 30歳代  | 4 40歳代 |
|         | 5 50歳代   | 6 60歳代               | 7 70歳以上 |        |
| 【お住まい等】 | 1 京都市在住  | 2 京都市通勤・通学（京都市在住除く。） |         |        |
|         | 3 1, 2以外 |                      |         |        |

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 平成26年8月発行 京都市印刷物第263087号

この印刷物が不要になれば  
「雑がみ」として古紙回収等へ！



(参考)

“京都をつなぐ無形文化遺産”と京都市内の無形（民俗）文化財

◆ “京都をつなぐ無形文化遺産”

選定名称
<p>京の食文化—大切にしたい心，受け継ぎたい知恵と味</p> <p>京・花街の文化—いまも息づく伝統伎芸とおもてなし</p> <p>京の地蔵盆—地域と世代をつなぐまちの伝統行事（審査中）</p>

◆京都市内の無形（民俗）文化財（既に文化財保護法等で指定・登録されているもの）

無形の文化的所産で我が国にとって歴史上または芸術上価値の高いものを「無形文化財」、衣食住，生業，信仰，年中行事等に関する風俗慣習や民俗芸能で人々の生活の推移の理解に欠くことのできないものを「無形民俗文化財」といいます。

区分	件数	種類（名称）
無形文化財	国指定	11 能楽（能シテ方，能囃子方・小鼓，狂言） 染織（有職織物，羅，経錦 <sup>たてにしき</sup> ，紬織，友禅，刺繍） 木竹工（木工芸） 人形（桐塑人形 <sup>とうそ</sup> ）
	京都府指定	10 陶芸（陶芸） 染織（絞り染，友禅，紬織，紋織） 金工（鍛金） 硝子工芸（鑄込み硝子，切子硝子） 舞踊（上方舞・井上流） 京料理（会席料理）
無形民俗文化財	国指定	6 京都祇園祭の山鉾行事 壬生狂言 京都の六斎念仏 嵯峨大念仏狂言 やすらい花 久多の花笠踊
	京都市登録	53 大文字送り火 時代祭風俗行列 鞍馬火祭 賀茂競馬 <sup>くらべうま</sup> ほか
	京都府指定	1 矢代田楽
	京都府登録	2 小塩の上げ松 <sup>おしお</sup> 山国隊軍楽